

国際貿易港 山川港

山川港は中世から国際貿易港として栄え、ポルトガル人商人も滞在していた。江戸時代には、薩摩藩の藩港として、「琉球口」として、さまざまな物資を運び藩の財政を支えた。



平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)

お問い合わせ 指宿まるごと博物館実行委員会

時遊館COCCOはしむれ

住所 指宿市十二町2290 電話 0993-23-5100
<http://www.city.ibusuki.lg.jp/marugoto/>



凡 例	
史跡	墓地
城跡・館跡	巨木・珍しい木
板碑・供養塔	
※マップの中では、文化財の種類を下記のように色分けして表記しています。	
紫：県指定文化財	青：市指定文化財
緑：一般文化財	



山川港

約6,400年前、池田湖とほぼ同時期に形成された火口湾である。中世から国際貿易港としてにぎわっていた。湾入口の砂洲が鶴のくちばしに見えることから「鶴の港」とも呼ばれている。



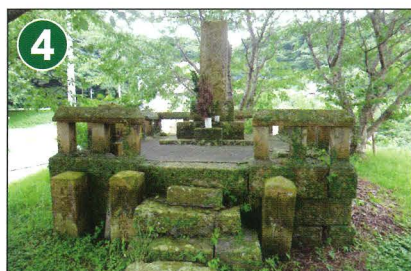
旧正龍寺跡墓石群 正龍寺宝珠付角柱石塔群

正龍寺が開かれた年代は不明だが、明徳元年(1391年)、京都五山の虎森和尚が再建した。明治の廃仏毀釈で廃寺となった。現在残る墓石群は、散逸した寺の「名残」を集めたものである。



河野覚兵衛家墓石群

河野家は山川港を拠点とした豪商で、代々「覚兵衛」と名乗る。奄美・琉球から得た黒砂糖や交易品を大阪方面に運び、財を成した。山川石で造られた河野家の墓は、享保年間から文久年間にわたる初代から7代までの歴代覚兵衛とその家族の12基が残されている。



西南戦争戦没者招魂塚

明治10年の西南戦争に従軍した戦没者の招魂塚である。山川からは多くの兵士が薩摩軍・官軍に分かれ戦った。明治13年に建立されたものである。



旧正龍寺仁王像

仁王像は、旧正龍寺の正面に建っていた像で、明治2年(1869)の廃仏毀釈の難を逃れ、ほぼ無傷のままの姿を残す貴重な石像である。



津口番所跡

応永18年(1411)に、第8代島津家当主島津久豊の命によって山川港へ出入りする船舶を檢める番所として設置された。対岸には、異国船の入船を監視する五人番所も設置されていた。



石敢當

丁字路などの突き当たりに置かれた魔除けの石標。山川港の丁字路に64個を数える。そのルーツは古代中国で、沖縄にも多くみられ、かつて山川港が南の玄関口であったことを物語っている。



山川薬園跡 及びリュウガン

島津氏は山川・佐多・吉野の3ヶ所に薬草園を設け、薬用植物の栽培に努めた。そのうち最も古いのが、万治2年(1659)に開設された山川薬園だ。リュウガンは、当時栽培されたものといわれている。



地頭仮屋跡石堀

山川郷の政治を司る地頭仮屋の石堀である。地頭仮屋には、政治全般を行う暖、事務や検察、訴訟などの仕事を担う横目、郷内の武士の指導や仮屋の警備を行う組頭の三つの役職が置かれた。



山川石

阿多カルデラの形成以降の火山噴火で堆積した黄褐色の福元火砕岩類の通称。石敢當や板碑、墓石の材料として用いられ、採掘された石切り場が残されている。また、島津斉彬等の歴代当主の墓石にも利用されている。



平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)

お問い合わせ 指宿まるごと博物館実行委員会

時遊館COCCOはしむれ

住所 指宿市十二町2290
電話 0993-23-5100
<http://www.city.ibusuki.lg.jp/marugoto/>

